

2025 年度 事業報告書

特定非利活動法人 ピッコラーレ

1 事業の成果

相談者・利用者に安心して利用してもらえる窓口・居場所であり続けるために、25年度も各事業で展開している既存の窓口・居場所の安定運営を目標に、組織基盤作りにも目を向けながら活動を進めてきた。

開設から10年を迎えた妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOS東京」は、前年度比で相談件数は減少したものの、同行支援が大幅に増加した。若者の相談の入り口として、AIの活用が急速に一般化した1年でもあり、窓口の認知経路としてAIが全体の1割を占めた。AIによる初期相談が普及する一方で、深刻な相談の解決にはやはり人的支援が不可欠であることを再確認する年となった。同行支援が必要なケースは、短期間で他の民間支援団体を含む複数の関係機関との連携が必要になる場面が多く、相談者にとって必要な社会資源に確実に繋げるために、現場では丁寧なやり取り・調整力を意識しながら対応を行っている。妊娠により孤立してしまっている人たちとどうしたら繋がっていくことができるか、自らに問いかけ続けながら、ニーズに合った窓口のあり方・運営ができるよう引き続き取り組んでいきたい。また、中絶後の相談窓口「PUPU」については、相談件数が昨年度比で20%程度減少したものの、依然として窓口の社会的ニーズの高さを感じる相談が多く寄せられている。次年度は「中絶に関する白書」の発行を予定しており準備を開始した。

研修事業については、前年度休止していた「支援者養成研修」を再開し、新たな企画・運営体制のもとでプログラム開発および研修を実施した。結果として延べ350名近い方々に参加いただくことができ、まずまずの再スタートを切ることができた。安定的・継続的な運営を目指し、業務フロー改善に取り組んできたことも次年度の発展に繋がる成果として上げておきたい。次年度はプログラムの提供方法を多様化させ、社会ニーズへの対応力強化と自主財源の拡充を目指していきたい。

政策提言については、代表理事が国・自治体の審議会・検討委員会に委員として参画し、思いがけない妊娠の背景や現場の課題や実態について政策議論の場で提言を行った。また、妊産婦等生活援助事業の目的や制度、支援現場への理解深化、および多様な関係者・関係機関のネットワーク構築を目的に、こども家庭庁の「特定妊婦等支援機関ネットワーク形成事業」の一環として「妊産婦等支援ネットワーク形成全国フォーラム」を開催(NPO法人PIECES、公益社団法人小さないのちのドア、認定NPO法人かものはしプロジェクトとの共同企画・運営)、これにより、全国の自治体・医療・福祉・民間団体を横断した特定妊婦の支援ネットワーク形成の契機を創出した。

その他、現場知見の社会発信と政策基盤づくりとして「妊娠葛藤白書」を用いたSRHRや妊娠葛藤に関する啓蒙啓発活動を継続したほか、各地から入る視察(行政・議員・支援団体)等の問い合わせにもできる限り対応し現場の気づきの共有に務めた。

projectHOME(居場所事業)で展開している「ぴさら」(居所のない妊婦のための宿泊型居場所)は、行政機関等からの利用相談が途絶えず、25年度も100%の稼働率となった。増加する需要に対応するため、年度末に向けて受け入れ部屋数を2部屋→3部屋に拡充して運営を行った。「ぴさら」卒業後のアフターケアについても、「お仕事会」「よちよち会」「赤ちゃん会」等グループで集まる機会に加え、個別相談・ショートステイ、アウトリーチ(訪問・出張支援)など様々な方法でサポートを行っている。25年度は豊島区に新たな拠点を獲得、若年シングルマザーの居場所「マハロ」およびピッコラーレと繋がりのある全ての女性を対象とした居場所「アイナ」の運営を開始、ピアスタッフを中心に丁寧な場づくりがなされ、初年度から多くの若者や子どもたちに利用された。「ぴこカフェ」(女の子/女性のための居場所)については、行政委託から自主運営へと移行した。それに伴い開催回数は減少したもののリピーターを中心に利用され、性や人間関係に関する多様な相談・対話ができる場として継続的な運営を行った。

中高生をはじめとする若年層が集まる場所へ出張する形式で、包括的性教育の場である「ピコの保健室」の実践を継続した。25年度は千葉県教育委員会のプロジェクトを通して千葉県内の高校7校において性教育講演を実施、希望校には「ピコの保健室」の体験会をあわせて提供し、好評を得ている。

これまでの10年、多様なステークホルダーに協力いただきながら、現場で必要な活動を継続・発展させていくことができた。組織としても新たなフェーズにある中で大小壁にぶつかることも少なくないが、周囲にも協力を求めながら、ピッコラーレらしい成長や変化を遂げられる1年とし、引き続き「誰もが孤立せず、自由に幸せに生きていける社会」の実現に貢献をしていきたい。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【 161,490 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
性の健康や妊娠・出産に関する相談支援事業	●妊娠葛藤相談窓口の運営 1.にんしん SOS 東京 2.にんしん SOS 埼玉 3.にんしん SOS ちば ※産む・産まない、育てる・育てないにかかわらず、にんしんにまつわる全ての「困った」「どうしよう」に寄り添う	【相談窓口開設時間】 1.にんしんSOS東京(自主運営):365日16:00～23:00(電話),週5回各2時間(チャット相談) 2.にんしんSOS埼玉(埼玉県より委託):365日16:00～23:00(電話) 3.にんしんSOSちば(千葉県より委託):365日16:00～23:00(電話),週5回各2時間(チャット相談) ※3つの窓口共通: ・メールは24時間年中無休で受付 ・必要に応じて医療機関や行政等への面談・同行支援を実施	【相談受付方法】 メール・電話・チャット※チャット相談は「にんしんSOS東京」「にんしんSOSちば」で実施 ※面談・同行支援については相談者が居住する地域にアウトリーチ	約40名	日本全国	【妊娠葛藤相談窓口】 ・相談人数約3,041人 ・相談延べ対応回数:約9,552回 ・面談/同行支援回数:約59回 ※いずれも3つの窓口の合計数	61,542
	●中絶後の相談窓口の運営	【相談窓口開設時間】 メールにて24時間年中無休で受付(返信対応は1回/週)	中絶後の相談窓口は、メールのみで受付			【中絶後の相談窓口】 ・相談人数約120人	
	●「妊娠葛藤白書」販売(2021年4月1日発行) ●「妊娠葛藤白書」他を活用した政策提言活動 ●審議会・検討会等へ構成委員として参画	通年	オンライン販売・配布 提言先:子ども家庭庁他	約5名	日本全国	「妊娠葛藤白書」販売数:44冊	

	●「妊産婦等支援ネットワーク形成全国フォーラム」の開催(特定妊婦等支援機関ネットワーク形成事業)	・交流会(10/15, 3/5) ・全国フォーラム(12/6-7)	オンライン ハイブリット	約10名(他団体の協力含む)		10/15:約350名 3/5:約47名 12/6-7:約345名 (2日間合計)	
	●「支援者養成研修」の再開・実施	相談窓口知識編/1日@7/27 相談窓口実践編/1日@9/13 びさら知識編/1日@11/9 びさら実践編/1日@12/14 PUPU編(単科講座) @11/29,3/8 性教育編(単科講座) @1/25,2/18	知識編: オンライン実践編:会場			7/27:99名 9/13:48名 11/9:49名 12/14:31名 11/29&3/8:47名 1/25,2/18:76名	
	●妊娠葛藤を取り巻く課題を啓発するための講演活動・視察対応	行政、医療機関、民間団体、企業などからの講演、依頼に応じて	オンライン・会場、ハイブリット	約15名	日本全国	約4,000人	
	●ライフステージにおいて妊娠を考える教育事業(千葉県教育委員会)	生徒向け性教育講演@県立高校7校 教職員対象研修会	各校会場 県内会場	約5名 約3名	千葉県	約1,600人 約100名	
青少年や母子の健康推進に関する啓発普及やそれに関連する事業	●居所のない妊婦のための居場所づくり「project HOME」 1.「びさら」の運営 2.「びさら」卒業生のアフターケア 3.「マハロ」(若年シングルマザーの居場所)および「アイナ」(ピッコラーレと繋がりのある全ての女性のための居場所)の運営	通年	豊島区	約35名 約10名	関東圏を中心に日本全国	【びさら/アフター】 ・びさら宿泊利用人数(妊婦7人, 新生児4人) ・アフターケアのショートステイ 4回, 延べ利用人数:12人 ・アフターケアのデイ利用(グループ/個別対応) 64回, 延べ利用人数:約108人 ・アフターケアのアウトリーチ利用41回, 延べ利用人数:約66人 ・開所回数(マハロ・アイナ):約30回 ・延べ参加人数:約110名	99,947

	●ピコの保健室 主に10代を対象とした包括的性教育の継続的实践 1.来所型 2.出張型 ※他機関(学校や地域のユースセンター等)と連携した出張型保健室 ●ぴこカフェの運営 主に10・20代の若年女性を対象に、安心して相談もできる居場所の運営(自主運営へ切り替え) ※生理用品の無料配布等を通して、体のこと、関係性、パートナーシップなどについての相談機会も積極的に提供	【ピコの保健室開催日】 1.来所型:随時 2.出張型:各施設で月1回程度 3.講演型:依頼に応じて 【ぴこカフェ開催日】 ・月1回(第2火曜日) 14:00~18:00	豊島区 豊島区を中心に関東圏 ひがいきぽンド@豊島区	約5名 約10名	豊島区を中心に関東圏	【ピコの保健室】 1~2合計: 約146人 出張保健室:36回開催 【ぴこカフェ利用者数】 ・約103名	
--	--	---	---	------------------------	-------------------	--	--